

会田安明 和算家。関流藤田貞資に誤り指摘されて逆批判、壮絶な数学論争を繰り広げて、最上流を興した。

あいだやすあき

義経千本桜・1747 = 出羽国前明石村の農民ながら農業を嫌って山形城下七日町に出、金で会田家の養子になった内海重兵衛の子に生まれる。幼名重松。

徳川吉宗没・1751 = 4歳：

自然真嘗道・1755 = 8歳：極めて難しい知恵の輪"九連環"を買った際、一晩かかって解き外すなど、数学への素質を示し、
..... 1756 = **9歳**：

ガキ大将でもあって、

大岡忠光没・1760 = 13歳：2~30人を相手に喧嘩した際、一人ずつしかかかれぬように狭い軒下に逃げ込んで、果敢に戦ったりし、
..... 1761 = 14歳：博打にも手を出して、父から諭され、
..... 1762 = 15歳：居合術・棒術の修得のために入門した十日町の岡崎権兵衛安之が数学も教えていたことから、数学(中西流・直指撞破流)に興味を持ち始めるや、たちまちに修得、

蘭金銀錦絵始1765 = **18歳**：*早くも、師範代となり、「算方名集」「統宗算法記」「無極演段集」、

忠臣蔵大当り1766 = 19歳：「鉤股弦妙矩」「太極天元記」、

意次側用人・1767 = 20歳：この頃、父が死去。「算法指南書」「具応好術記」を著すなど、筆の早さも際立ち、

..... 1769 = 22歳：日本一の数学者になると江戸に出、生活のため、御家人の株を買って、旗本鈴木清左衛門の養嗣子に入り、鈴木彦助と称して、幕府の土木工事を司る普請役に就く。

田沼意次老中1772 = 25歳：

田沼意次の方針で国土開発のための水利工事が集中するなか、能吏ぶりを発揮するうち、

解体新書・1774 = **27歳**：

..... 1781 = 34歳：藤田貞資が名著「精要算法」を出版、そのレベルの高さを知るや、居ても立ってもいられず、本格的な和算研究の道に入ろう、芝罘岩山に初めて算額を奉納し、
天明大飢饉始1782 = 35歳：同僚だった和算家神谷定令の紹介を得て、入門しようと藤田貞資を訪ねて、算額の解答の単なる用語の誤りを指摘されるや、自ら入門を断り、逆に「精要算法」を批判して、

蘭学階梯・1783 = **36歳**：*「改精算法」を完成。神谷の反対を退けて、

蝦夷初調査・1785 = 38歳：刊行するや非難の大合唱。立場を失った神谷から「改精算法正論」で反論されるも引下らず、

田沼意次失脚1786 = 39歳：

寛政改革始・1787 = 40歳：神谷の「非改精算法」出版に前後して「改精算法改正論」を出版、両者の間で大論争が始まると同時に、寛政の改革よって解雇されると、これを好機とばかり、関流との対抗に本腰を入れ、「解惑算法」を刊行して、会田安明と名乗るとともに、最上流と標榜。

初の横綱・1789 = 42歳：藤田貞資父子が全国の算額集「神壁算法」を出版し、わざわざ安明の愛宕山算額について指摘し、

異学の禁・1790 = 43歳：神谷が「解惑弁誤」を著して、安明が藤田貞資に入門しようとした時のことを暴露、

ウツミ来日・1792 = **45歳**：

松平定信引退1793 = 46歳：「神壁算法」を批判する「神壁算法真術」を著すも出版せずにいたが、

プルトウ来航・1796 = 49歳：「増刻神壁算法」が出版されると、そこに追加された算額が実在しないことを確認し、

昌平黉始・1797 = 50歳：「増刻神壁算法評林」を出版して指摘。その間も、膨大な古来の和算書を徹底的に調査し、選び抜いた名著に批評を加えた「算法古今通覽」を出版するなど、関流固定化以前の先学に対しては非常に謙虚で、関流と対照的に、どんな奥義も著作で公開し、その書写も許可したので、最上流は瞬間に広がって行く。

蝦夷地直轄始1799 = 52歳：神谷が「撥乱算法」を出版すると、

伊能測量始・1800 = 53歳：「絵本工夫之錦評林」、

本居宣長没・1801 = **54歳**：「算法非撥乱」で罵倒、

藤栗毛始・1802 = 55歳：神谷も「福成算法」のなかで愚弄するなど、論争は、互いの揚げ足取り、罵詈雑言の応酬になってゆき、対数表の作成法をはじめ、数学の系統化、簡単化を基本精神とするが、関流の点鼠術を改良した天生法を編み出し、それまで解けなかった方程式を解くなど、実力は高く、

バノ報復・1806 = 59歳：神谷との論争は、この頃まで続いた。

ウツミ船狼藉・1807 = 60歳：もちろん関孝和を尊敬して、その百回忌には和算書「捧法行院殿豊前算題」を奉納している。

間宮海峡発見1809 = 62歳：自らの著書目録を作成、千三百余巻になったと記し、

..... 1810 = **63歳**：*公式と例題を系統的にまとめた「算法天生法指南」を刊行、今日でも最良の和算入門書とされる。

北本所表町、後に浅草堀田原に住み、多くの弟子を育成し、

終日机に向かって研究著述をしてきたため、足腰が立たなくなって、

杉田玄白没・1817 = 70歳：*生涯に伝書六百巻、著書百巻を著わして、浅草で、没した。

「算法貫通術」「重乗算類術」「対数表起源」「零約術」「算法綴術」「算法角術」「算法側円集」「再訂精要算法起源」「算法整数術」「求単数之術」など。